

JCB、加盟店管理でAI活用へ

2017年12月26日 18:59 [有料会員限定]

クレジットカード大手のジェーシービー（JCB）は、人工知能（AI）を活用して加盟店を管理するシステムを開発する。2018年4月に運用を始める予定。今回のAIは、店側がどんなモノやサービスを提供しているかを画像を通じて解析する。利用者がクレジットカードをめぐる各種トラブルに巻き込まれないように、加盟店管理を強化する。

加盟店の販売状況を巡ってはこれまで、ホームページやSNSなど、いわゆる文字情報で分析していた。今回のAIは、ホームページなどの画像を通じて、カード会社との契約に違反する銃火器や現金などを販売していないか確かめる。

AIは写真に写っているものが1万円札で折った折り紙でも「現金」と認識する機能を持つ。解析の精度を上げることで不正やトラブルの早期発見につなげる。

また、膨大な量の加盟店に関する情報もリアルタイムで分析できるようにし、不正を行った加盟店の早期発見につなげる。2018年に施行される改正割賦販売法でカード会社には加盟店管理の強化が求められるため、その対応として導入する目的もある。

本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は、日本経済新聞社またはその情報提供者に帰属します。また、本サービスに掲載の記事・写真等の無断複製・転載を禁じます。

NIKKEI No reproduction without permission.